

5年1組 算数科 授業考察レポート

授業の視点 学び合いのある授業

(1) 子ども同士のかかわり方

○つかむ場面の工夫…手立てや活動を工夫することで、子ども達の学習意欲が盛り上がり、学び合う場面で様々なことを話し合い、面積の等積変形の知見を広げることができたのではないだろうか。

- ①課題解決の方法を考える時間の保障をする。
- ②なぜその方法が有効であるのか話し合う。
- ③自分はどんな方法で面積を求めてみたいかはっきりさせる。
- ④自力解決ができそうな状態まで全体で解決の方法を考える。

課題解決の見通しをもつ「つかむ」場面で「やってみよう」という手立てを講じることで、学び合う場面での子ども同士のかかわりがより一層主体的なものになると考える。

(2) 子ども自身の変容につながる振り返り

○学び合いの成果… 「今日は〇〇のことが分かってよかった」

↓

「自分の考えたものは〇個だったけど、実は□個あることが分かった」

自分の考えとクラス全員で学び合ったことを比較し、自分の確かな学びにしていく振り返りをすることが「学び合い」のよさを感じさせ、自分の知見の深まりにもつながる。

○振り返りからの評価…学び合いでの様々な考えの中における各考えの相違点を見つけ出すことで、考えのグループ分けをする力を評価することも可能である。

(3) 学習材とのかかわらせ方

○課題提示との関連… 課題：＜平行四辺形の面積の求め方を考えよう＞

- ・「補助線を書き入れる」方法と「切り取る」の2つの方法をとった。
- ・面積を求めることは要求せず、長方形を作ることに専念した。

↓

・様々な長方形の作り方を自分なりの方法でいくつも考えようとしていた。
※面積を求めていたら、いくつも長方形を考えることはしなかった可能性がある。

(4) 教師の支援と評価

○認める支援…自力解決したことを発表し、「学び合う」場面では、個々の考えに教師が丁寧に対応し、しっかりと価値付けを行うことで次のことが期待される。

- ① 次回の発表への意欲付け
- ② 変容へのきっかけ
- ③ 考え方の確認

○教師の姿…表情を豊かにしていくことが、子どもたちへの意欲付けとなり、さらに一つ一つの考えや活動の価値付けが確かなものになっていく。